

平成26年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城南中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成26年4月22日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 数学B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

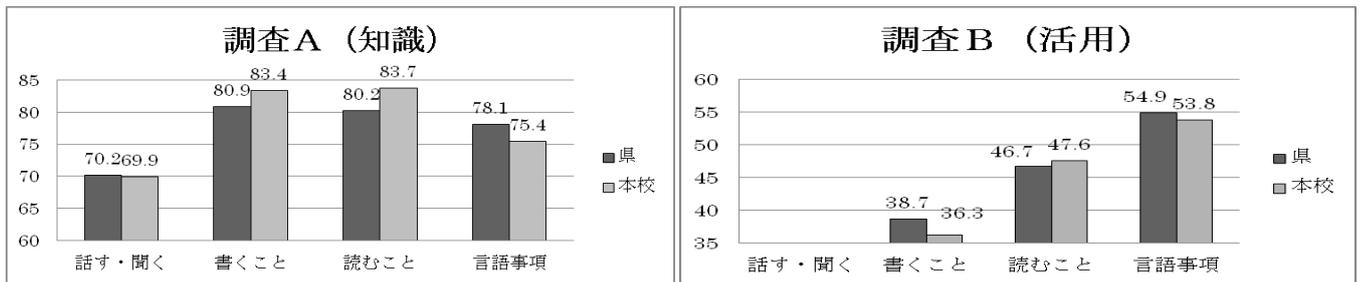
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



基礎的な知識を問うA問題では「書くこと」、「読むこと」の2つで県の正答率を上回ったが、全体では 0.5 ポイント下回った。一方、活用力を問うB問題では、問題数の多い「読むこと」が県の正答率を上回り、全体では 0.8 ポイント上回った。

(2) 考察と課題

話すこと・聞くこと

A問題において4問中3問が、県の正答率を下回った。日常的に話し合いなどを授業中に行っている効果か、「司会の役割を果たす」力は全国の正答率を大きく上回った。一方、「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」「必要に応じて質問し、情報を聞き出す」「目的に沿って発言を検討する」など、情報を活用する力が不足しているところがあるため、今後、情報を整理し、活用してまとめる学習を取り入れていきたい。

書くこと

A問題、B問題あわせて9問中ほとんどが、県の正答率とあまり変わらなかった。ウェブページに関することやインターネットに関することについては、日常的に使用している生徒も多く、身近な内容だったためか、正答率が高かった。一方、「適切に書き換える」などは県の正答率を下回っている。正しい言葉を適切に使えるよう、日常から辞書を活用するなどして、語彙力の定着を図りたい。

読むこと

13問中7問が県の正答率と並び、5問が県の正答率を上回り、1問が下回った。読書好きの生徒が多いこともあり、小説など文学的文章での人物の心情の読み取りはできるが、評論などの説明的文章での筆者の主張を捉えることなど、身近でないものに対しては苦手意識がある。普段からさまざまな文章に触れ、その差をなくしたい。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

ほとんどが県の正答率とならんでいる。しかしながら、適切な語句を選択するなど、語彙力に関しては改善の余地があり、課題作文の指導の際や、意味調べでの辞書を引く回数を増やし、使用する言葉のバリエーションを広げていきたい。

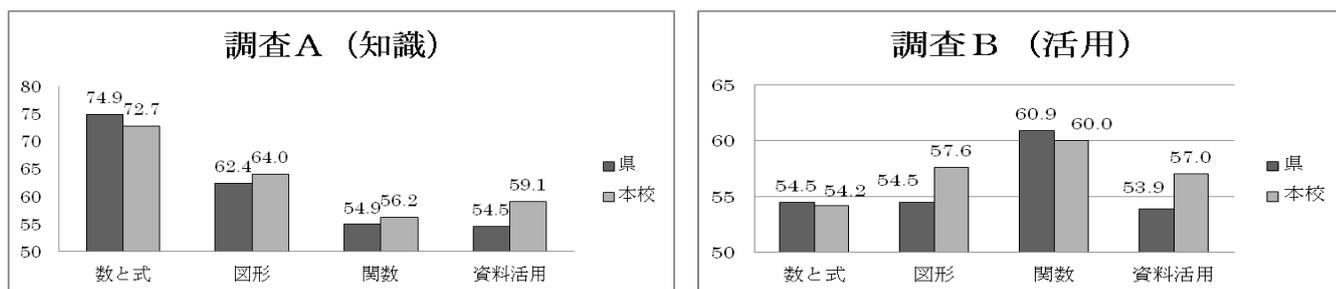
(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 朝自習の時間を活用し、朝読書・新聞のコラムの利用・すくすくテストに取り組みます。
- 全教科で生徒が交流し、共に学びあう活動を取り入れた授業を行い、話す・聞くなど表現力の向上を図ります。
- 授業では、基盤となる言語力の向上に努め、定期的な漢字テストや帯単元として漢字や語彙力を意識した学習を取り入れることで、文脈の中で適切に言葉を使う力を養います。
- グループワークによる話す・聞く活動を多く取り入れることで、コミュニケーション能力を高め、交流活動の精度を高めていきます。

2 数学

(1) 結果



基礎的な知識を問う A 問題では、4 項目中 3 項目で県の正答率を上回っており、活用力を問う B 問題では、4 項目中 2 項目で県の正答率を上回っている。数と式に関する項目では A 問題、B 問題共に県の正答率を下回っているため、正確に計算する力を向上させることにより学力の底上げを図りたい。

(2) 考察と課題

数と式

A 問題では 12 問中 8 問が、県の正答率を下回っていた。中でも文字を含んだ分数のかけ算やわり算の計算に課題が見られた。しかしながら、等式の性質を基にして方程式を解く問題はよくできていた。

図形

A 問題も B 問題も県の正答率を上回っており、立体の体積について十分理解できていた。また、三角形の合同条件を用いた証明問題を理解している生徒も多い。しかし、円錐に関する問題の無解答率が高く、立体の展開図の意味を適切に理解させる必要がある。

関数

A 問題では県の正答率を上回っており、反比例の性質や一次関数の変化の割合の意味、またグラフを描くことについても十分理解ができていた。一方、B 問題では県の正答率を下回っており、関数の意味や与えられたグラフから必要な情報を適切に読み取ることに課題が見られる。

資料の活用

A 問題、B 問題とも、県の正答率を大きく上回っていた。特に分類・整理された表やグラフから適切に情報を読み取ることができていた。しかし、確率の問題では、県の正答率を下回っており、確率の求め方やその意味を理解させる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

○全教科で生徒が交流し、共に学び合う活動を取り入れた授業を行い、話す・聞くなど表現力の向上を図ります。

【数学科では】

○授業の最初にペアによる学び合い学習を行い、本時の授業で必要となる基礎的知識の習得を図ります。

○定期的に小テストを実施し、授業内容の確実な定着を図ります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査(3年生)

(1) 結果

① 生活習慣について（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」をふくむ）

調査項目	本校(%)	佐賀県(%)
朝食を毎日食べている(「どちらかといえば、してる」を含む)	91.8	94.3
毎日同じ時刻に寝ている(「どちらかといえば、してる」を含む)	82.1	78.0
毎日同じ時刻に起きている(「どちらかといえば、してる」を含む)	92.3	93.7
平日2時間以上テレビを見る	54.1	55.1
平日2時間以上ゲームをする	38.2	29.8
平日2時間以上通話やメール、インターネットをする	35.0	27.0
平日読書を30分以上している	31.2	36.2
学校図書館や地域の図書館を全く利用しない	59.2	46.9
新聞を読んでいる	20.9	24.1
地域の行事に参加している	23.5	49.4
新聞やテレビ、インターネットでニュースを見る	81.0	78.4

- ・朝食や起床、就寝、テレビ視聴については、県平均並みである。しかし、ゲームやメール等を長時間する生徒や、図書館を全く利用しない生徒の割合が比較的高く、活字離れが懸念される。
- ・地域のボランティア活動には、生徒会を中心として、よく参加しており地域の人からも賞賛の声をいただいている。しかし、地域行事の参加は低い数値となっており、このギャップが課題である。

② 家庭学習の様子（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」をふくむ）

調査項目	本校(%)	佐賀県(%)
平日2時間以上勉強している(塾・家庭教師を含む)	31.0	28.6
学習塾(家庭教師)で勉強している	53.2	49.0
自分で計画を立てて勉強している(「どちらかといえば、してる」を含む)	47.5	49.0
家で、学校の宿題をしている(「どちらかといえば、してる」を含む)	92.4	91.3
家で授業の予習をしている	54.4	35.2
家で授業の復習をしている	65.1	56.3

- ・県と比較して、予習・復習等の家庭学習は、大変よくできている。しかし、課題をこなしているだけで、計画的な学習ができているとはいえない。見通しをもって計画的な取り組みをさせることによって、学力向上につなげていきたい。

③ 心の内面の様子（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」をふくむ）

調査項目	本校(%)	佐賀県(%)
学校に行くのは楽しい	77.2	83.5
みんなで協力してやり遂げ、うれしかったことはある	79.1	82.5
先生はあなたの良いところを認めてくれている	67.0	72.1
社会で起こっていることに興味がある	53.2	58.8
学校の規則を守っている	85.5	92.2
人の気持ちの分かる人間になりたい	92.4	95.5
いじめはいけないことだと思う	90.6	95.0
人の役に立つ人間になりたい	91.1	94.9

- ・「学校へ行くのは楽しい」と答えた生徒の割合が県平均より 6%ほど低い。このことと本校の課題である「不登校生徒の多さ」との関連について、今後の検証が急務である。
- ・全項目とも県平均より低い。とくにいじめの項目では、いけないと思わない生徒が10%近くいるのは気になる場所である。心の教育が必要である。
- ・生徒間や教師間、家族間でうまくコミュニケーションがとれなかったり、相談しにくいと感じたりしている生徒が少なくない。

(2) 改善に向けた取り組み

【学校では】

- 道徳の時間だけでなく、授業や集会等、様々な機会をとらえて人権意識を醸成し、豊かな心を育みます。
- 生徒の自己肯定感と意欲を高め、進んで活動できるように生徒の長所を探し、認めていきます。
- 自学ノートや漢字、英語の書き取りなど家庭での学習課題を工夫しながら、学習習慣を確立していきます。
- 道徳や学級指導・学級活動の時間はもちろん、教科指導の時間でも、生徒のコミュニケーション能力の向上を図ります。
- 生徒の心に寄り添う教育相談や一人一人が生き方を考える進路指導を充実させます。

【ご家庭では】

- 家庭での普段の会話を大切に、メールやインターネット等について親子でルール作りをしてください。
- 学年プラス1時間、家庭学習の時間を確保してあげてください。
- 朝食や就寝、起床など基本的な生活のリズムを整えてください。
- 文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科につながります。新聞を読み、ニュースを聞いて、共通の話題をもとにご家庭での会話を楽しんでください。
- ご家庭での一歩進んだ学習をお勧めします。例えば、日記を書いたり、時間を決めた小刻みな読書の機会をもったりすることなどです。